



校長室だより

先生も生徒も「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ深け橋通信

第7号 令和4年7月4日

小美玉市立美野里中学校

大会を通して得られるもの・得られたもの

総合体育大会は、3年生にとっては、中学校生活最後の大会であり、とても思い出に残るものです。大会は、バドミントン競技を除いて、各種目とも、中央地区大会までが先週終了しました。

ステージが上がるにつれ、簡単に勝つことができなくなります。私も、会場に出向き、多くの感動的な、また感慨深いシーンを目の当たりにしました。本当にぎりぎりの勝負をしていた試合もありました。その中で勝ち抜いて歓喜に沸く試合もありましたし、惜敗し涙する試合もありました。いずれも、選手たちは、正々堂々と、本当に見事な戦いぶりでした。勝利至上主義とはかけ離れた、人としての成長を感じました。勝っている人も、負けてしまった人も体験から多くのことを学び、心が鍛えられているのは確かなことです。

スポーツですから、厳しい結果が出ることもあります。その結果を、誰のせいにもできません。

引きずっても良いことはありません。辛いけれど、潔く受け入れて、前を向き、次の目標に歩み出すしかありません。そのこと自体が、尊い学びだと、私は思っています。

今回の大会の中で、せった場面であればあるほど、感情が大きく揺さぶられたのではないのでしょうか。

また、負けているとき、劣勢になっているとき、心が折れそうになる体験をした人もいたのではないのでしょうか。

これからの人生の中で、こういう感情が沸き上がることが必ずあるはずです。

3年生のこれからになぞれますが、受験当日の緊張感や解けない問題に直面したときのあせりにも似ているかもしれません。

そういう場面で、自分をどう立て直すのか、例えば、リラックスできるためのルーティーンを自分なりに確立しておくのもよいでしょう。受験の1科目で失敗してしまっても、気持ちを切り替えて、次に取り組めるように心を鍛えておくのもよいでしょう。

もし、この大会で心の在り方に課題があって、望ましい結果が出せなかった人は、次の同じような場面に備えることで、今度は結果を変えることができるかもしれません。

選手たちは、スポーツが如何にメンタルに左右されるものかを味わったはずですが、でも、メンタルに左右されるのは、スポーツに限ったことではないのです。それをスポーツを通して、経験できたということなのです。

中央地区を勝ち抜き、県大会出場を決めた部活動も多くあります。その選手たちの挑戦は、さらに続いていきます。

より高いレベルで味わえる経験もあります。相手もそれ相応の努力をしています。それに勝つにはためには、一歩進んだ修練が必要です。自分の力を伸張させる絶好のチャンスです。「自分はやり抜くことができる」と心の中で言い続け、ポジティブに前進してください。

皆さんの「今」と「これから」を心から応援しています。

